

アラカルト

協同組合東京ハンドバッグ協会



矢作孝子さん
yabagi takako

「絶対に合格する！」 という気持ちが大切

ハンドバッグや財布の製造と卸売業者で構成されている協同組合東京ハンドバッグ協会（東京都台東区）事務局で経理を担当する矢作孝子さんは、組合士協会女性部副部長も務めるベテラン組合士だ。平成21年度には優良組合士表彰、25年度には全国中小企業団体中央会会長表彰も受表彰されている。

●歴史ある組合のスタッフとして

「協同組合東京ハンドバッグ協会」の前身である「東京囊（ふくろ）物煙草具製造販売同業組合」の歴史は明治38年にさかのぼる。

「いくつかの変遷を経て、平成9年に『協同組合東京袋物協会』から現在の名称と体制になりました。平成7年に私が採用されてすぐに90周年を迎えたことを覚えています。ハンドバッグ業界を取り巻く市況は現在厳しいものがありますが、こういう時こそ組合ががんばらなくてはと思います」

グローバル化に伴う海外生産へのシフト、販売チャンネルの多様化、消費者ニーズの多様化、職人の高齢化など業界が抱える課題は山積している。組合員数もピーク時から半減した。

「個々の企業だけではできないことでも、複数の企業が集まることで、何かできることがあると思います。これからも事務局スタッフとして、組合士としてお役に立ちたいですね」

●自分と組合のためにがんばって

矢作さんが検定試験に合格したのは平成13年。

「事務局に就職した当時の事務局長の女性（組合士）から受験を勧められました。最初は仕事を覚えるのが精いっぱいでしたから、実際に勉強を始めたのはもっと後のことです」矢作さんは、こう振り返る。

現在のようにパソコンが普及しておらず、事務書類がほとんど手書きだった時代、矢作さんは組合員の組合運営手続きのサポートに毎日奔走した。

「組合員企業の名前をゼロから覚えて書類を作るのですが、慣れるまでは大変でしたね。今は使いやすい会計ソフトも出回っているため、効率もよくなりました。会計事務のほか総会の資料作りや2年ごとの役員改選に関する手続き、労働保険事務組合の事務などを担当しています」

仕事と家事をこなしながら、少しずつ組合士の試験勉強を始めるようになった。

「なかなか時間も取れなかったのですが、始めてみると『組合士とは何か』ということから、知らなかったことがたくさんありました。また、『内部牽制』（会計事務等の不正防止のために複数の担当者が記帳や帳簿の保管をする）などの用語も覚えられて、組合運営の全体的なことが見えてくると、自信を持って仕事ができます。中央会の講習会でも友達ができて、とても心強かったです」

10分間の通勤電車の中では暗記に集中するなど、時間の使い方も工夫したが、合格の秘訣は「絶対に合格する！」という強い気持ちだという。

「合格したからといって、待遇がすぐによくなる職場は少ないですが、自己向上のためにがんばってください。途中で挫折される方もいますが、もったいないですね。私も組合会計では苦労しました。強い気持ちがあれば合格できます」

●協会女性部の副部長に就任

平成23年には、東京都中小企業組合士協会の「組合士協会女性部」の初代副部長にも就任した。女性部は22年度の同協会の新規事業である「会員間の相互交流に関する事業」の一環として発足、会員間の情報交換の促進を目標としている。

「毎年の研修会や懇親会も楽しみです。仕事からプライベートまで色々なことを話せる友達もできました。特に若い方々には、がんばって合格して、組合を支えてほしいですね」

より多くの組合士が誕生して、ともに現在の艱難を乗り越えていくことを期待したい。